

国語科学習指導案

令和6年9月25日(水)5校時
1年6組 40人(第1音楽室)
指導者 教諭 森 沙織

1 単元(教材)名

言葉に立ちどまる
教材「詩の世界」谷川俊太郎
比喩で広がる言葉の世界 森山卓郎(光村図書 国語1)

2 単元の目標

- (1) 比喩や倒置、反復などの技法や書き表し方の工夫を理解し、語句の辞書的な意味と文脈上の意味に注意して話や文章の中で使うことで語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。
【言葉・漢字(1)ウ・オ】
- (2) 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして自分の考えをもつことができる。
【C読む(1)エ】
- (3) 根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
【B書く(1)ウ】
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに進んで音読し、わが国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
【学びに向かう力、人間性等】

3 本単元における言語活動

教科書や10編の詩から読み取った内容や疑問に思ったこと、感想などを話し合い、それらを聞いて質問したり、意見を述べたりすることを通して自分の考えをまとめる。

4 単元(題材)の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比喩、反復などの表現の技法、一語一語の書き方などの効果を理解し、使うことができる。 【(1)オ】	① 詩の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 【(1)エ】 ② 「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 【(1)ウ】	詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、見通しをもって学習を進め、詩の紹介文を書こうとしている。

5 単元について

(1) 教材観

異なった題材である10編の詩を音読することや、疑問に思ったことを共有し、それを追究することで、「よくわからない」と敬遠されがちな詩を読むことのおもしろさに親しむきっかけとしたい。詩の中の選び抜かれた言葉や「わからない」と感じる疑問を掘り下げ、一語一語のもつ意味から想像力をかきたてることで語感を磨き、心が動く言葉や詩との出会いになる。また、作者の独特の感性でとらえた感動や見立てることの興味深さ、その他の表現技法やリズムの工夫などの効果的な表現の面白さを学ぶことで、今後の「読むこと」「書くこと」の学習に生かせるような教材である。

今回の単元のまとめとして、学習した表現技法等を観点に詩を読み取り、お気に入りの詩の紹介文を書き互いに読み合い、疑問点等を伝え合いなが推敲し詩の魅力をまとめさせたい。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は男子生徒を中心に明るく活気があり、積極的に自分の考えを発表したり、質問したりすることができる。一方じっくりと考えたり、自分の伝えたいことをまとめたりすることが苦手な傾向にあり、生徒間の学力差も大きい。

表現技法については、小学校でもすでに学習しているが名称と具体的な表現を結びつけ、その意図や効果を理解することはできていない。

4月に実施したNRTの検査結果でも、「読むこと」と「知識・技能」の領域における「内容理解」「意見文や考えの記述」「類義語の使い分け」「語句の意味」「表現読み取り」の通過率が全国平均を下回っており、言葉を正しく読み取ることへの意識が低いことがわかる。

本単元では、既習の表現方法を理解させなが、表現の効果など観点をふまえた詩の読み取りをする中で、作者によって選び抜かれた言葉に注目させる。さらに、詩の魅力を紹介文として相手に伝えるようにまとめることで、詩を読む楽しさと言葉の持つ力を感じさせたい。

(3) 言語活動の特性

本単元では、詩の中に使われている言葉に着目し、その言葉の辞書的な意味や、文脈上での意味との関係に注意したり、表現技法、構成、展開などから情景や心情など根拠を明確にして読み取ったりすることで語彙力を高め、言葉がもつ価値に気付くことを目標としている。特に詩の紹介文を書くことを言語活動として位置付け、詩に描かれている情景や心情を想像し、作者の思いが相手に伝わるように、言葉や表現を工夫させることで、言葉に対する豊かな感性を育むきっかけとしたいと考える。

6 単元の指導の計画(全5時間)

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標と学習計画を確認し、見通しをもつ。 ○ 既習した詩から、心に残った詩を挙げ、詩の魅力について考え、詩の「定義」や「表現技法」について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールである「詩の紹介文を書こう」を示すことによって生徒が学習の見通しをもてるようにする。 ・既習の詩を生徒に想起させ、詩の表現技法を確認させる。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 観察・発表・ノート 振り返りシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩を読む観点について考えたり、三編の詩の音読を通して、疑問点やテーマについて意欲的に考えたりしようとしているか確認する。
	<p>【既習している詩の例】 たんぼぼ・赤とんぼ・あおぞら(まどみちお)/土(三好達治) /わたしと小鳥とすずと(金子みすゞ)/ぼくぼく(八木重吉) /春のうた(草野心平)/どきん(谷川俊太郎)等</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三編の詩を音読し、詩のリズムを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問点に注目したり、詩の特性を考えたりすることによって、詩の定義や詩を読む際の観点を共有できるようにさせる。 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「一枚の絵」の詩を読み、詩の観点とともに、作者の伝えたいことについて考える。 <p>【一枚の絵】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2連構成である。第1連で動きのある水鳥の様子、第2連では静を感じる水鳥の様子を対比させている。 ・比喩や倒置法が効果的に使われている ・朝の光を受けて色を変えていく湖面、その上を水鳥が飛ぶ様子を画家が絵を描く姿に見立てて表現している。 (叙景詩) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で確認した詩を読むときの観点を再度確認させる。 <p>【詩の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム(五七調・七五調) ・表現技法(比喩・擬人法) ・体言止め・対句・繰り返し) ・響き・題名・連・イメージ ・構成 	<p>【思考・判断・表現】① 発表・タブレット ・振り返りシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩の観点をもとに、表現の工夫やその効果、作者が伝えなかった思いについて考えているかを確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観点や表現技法から考えたことについて、互いの意見を共有する。 ○ 他者の意見を参考に自分の考えを見直し、再度まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と意見を交換させることによって自身の考えを深めることができるようにさせる。 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「比喩」について確認し、表現技法の効果について理解を深める。 ○ 10編の中から紹介したい詩を選び、その詩の魅力に対する自分の考えをロイロノートやワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10編の中から選んだ詩をロイロノートに書き、詩の魅力やその詩を選んだ根拠を下書きさせる。 	<p>【知識・技能】 ワークシート・ロイロノート 振り返りシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙について深く考えているかを確認する。

4 (本時)	<p>○ 選んだ詩の観点から根拠を明確にし、紹介文を完成させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作者が伝えたかったことを考える。 ・ 表現技法の効果を読みとる。 ・ 自分が感じた詩のイメージや魅力についてまとめる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 詩の魅力を伝えるために根拠を明確にし、構成を工夫するように促して、発表に向けての原稿を仕上げる。 ・ 詩の構成や展開、描かれている情景や作者の思いを想像させることによって、表現の効果を深く考えるようにする。 ・ 付箋等を利用し互いに助言したり意見交換で深まったりしたことをふまえ、根拠を明確にした紹介文をまとめることができるようにする。 <p style="text-align: center;">【非認知能力：協働力】</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】①</p> <p>ワークシート・タブレット・付箋 ・ 振り返りシート</p> <p>・ 描かれた情景や印象に残った表現の効果、作者が詩に込めた思いなどの根拠を明確にしているかを確認する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現】②</p> <p>ワークシート・付箋 ・ タブレット</p> <p>・ 根拠を明確に相手に伝わるような文章になるよう工夫しているかを確認する。</p> </div>
5	<p>○ 「詩の紹介文」を発表する。</p> <p>○ 本単元の振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に書いた「詩の紹介文」を詩の魅力が的確に伝わるような話し方で発表させる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>発表・振り返りシート</p> <p>・ 前時までの活動・発表を振り返り、見直しをもって詩の紹介文を書くことができたか確認する。</p> </div>

7 単元のゴールの姿

話し合い活動の中で、他者の意見を聞くことで考えを広げたり深めたりし、作者が詩に込めた思いや魅力、表現方法に気づくことができる。さらに単元のまとめとして、自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩の紹介文を書くことを指導の目標とする。

ゴールイメージ（紹介文の作品例）

【「朝」吉田 加南子 の紹介文の場合】

夜が明け、周囲がはっきりと確認できる明るさになり改めて見上げた空で気づいた事実。それは空と屋根は触れているように見えるが、決してまじわっていないということ。空は屋根に接しているように下からは見えるが、実際空は、触れられるような近さにはなく、はるか遠くに存在するものである。その事実に作者は驚き、言葉を失っている様子が「——」の部分から感じられる。下から見上げると同じ位置にあるように感じた、空と屋根との実際の距離を肌で感じることで、作者の空に対するイメージの変化、新たなものさしで空を見ることができるようになったように感じる。また空に対しての特別な感情が芽生えたように感じられる詩である。

【「月夜の浜辺」中原 中也 の紹介文の場合】

「月夜の晩」という書き出しで始まる箇所が4か所あることから、読み進める中で幻想的な月夜が強く広がっていく。（反復法）また七音の繰り返しでリズムを作っている。何もつなぎ合わせることができない（役に立たない）落ちていたボタンに、自分の姿を重ね手放せなくなったのか、袂に衝動的に入れずにはおかれなかった作者の心情が表現されている。月夜という幻想的な空間の中、内省しながら歩いていた作者の目にとまったボタンが、自分の姿、もしくは当時亡くなった息子の姿と重なったのかもしれない。作者の一部分のように感じたボタンへのこだわりが、最後の「月夜の晩に、拾ったボタンは どうしてそれが、捨てられようか？」の反語表現の中にも強く表れている。他人には伝わりにくい、自分が大切にしている部分（個性）は何かを改めて考えさせられる詩である。

【「未確認飛行物体」入沢 康夫 の紹介文の場合】

一般的には飛ぶとは考えにくい、「薬缶」が空を飛ぶ様子を「未確認飛行物体（UFO）」と題名に表現しているところが面白い。夜ごとこっそり台所を抜け出し、遠い砂漠の真ん中に咲く一輪の淋しい花のもとまで一生懸命に飛んでいき、ありったけの水を捧げて、戻ってくるという薬缶の花に対するひたむきだが、不格好な愛情が想像され興味をそそられる。おそらく花は気づいていないであろう薬缶の必死な思いが「心もち身をかしげて」「息せき切って」という擬人法の工夫からひしひしと伝わり、共感しやすく思わず薬缶を応援したくなる詩である。また憧れの花を淋しいと形容しているところから、自分の不格好な生き方を肯定しているようにも感じられる。

8 本時の実際

(1) 本時の目標

詩の紹介文を書くために、描かれた情景や印象に残った表現の効果、作者が詩に込めた思いなどの根拠を明確にすることで相手に伝わりやすい文章を書くことができる。

(2) 授業設計の工夫

ア 詩の魅力を読み取れるように、詩の定義や詩の観点を全体で共有する。

イ 進度が遅かったり、困ったりしている生徒には、友人からのアドバイスや、教師による助言などで、紹介文を完成させるようにする。【非認知能力：協働力】

ウ ICTの効果的な活用を通して構成や表現の効果について読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書かせる。

エ 「振り返りシート」で、主体的に活動し根拠をもって深く詩を読むことができたか振り返らせる。

(3) 学習の展開

過程	主な学習内容及び活動	時間(分) 【学習形態】	○指導上の留意点 ◎評価
導入	1 前時までに選んだ「紹介したい詩」を確認する。 2 本時の学習課題を確認する。 【学習課題】 詩の魅力が伝わるような紹介文を書こう。	5 【一斉】	○ 前時に選んだ「紹介したい詩」をそれぞれロイロノートやワークシートに準備できているか確認させる。
	3 これまでの学習を振り返り、詩の魅力について確認する。 ※ ロイロノートで提示・共有 【詩の魅力（観点）】 ・リズム（五七調・七五調）・表現技法（比喩・擬人法・体言止め・対句・反復） ・響き・題名・連・イメージ・構成 4 10編の詩から1編選び、表現技法や根拠を明確に、それぞれの詩の紹介文をワークシートに書く。 【ヒントカード】 ・書き出し例などについて紹介する。 ・情景・感情・場面などを書く。 ・詩の魅力や感想について根拠を明確に書く。 ・表現技法の効果についてまとめる。	5 【一斉】 13 【個人】	○ 前時までに確認した詩の魅力を振り返り、紹介文を書く観点を確認させる。 ○ 紹介文への取り組み状況をTVモニターに映し、共有できるようにする。 ◎ 図書館の本などの参考資料を使い、作者が選んだ言葉の意味を考えながら、描かれている情景や場面、心情を想像することができる。 【思考・判断・表現】 ○ 紹介文を書き出せない生徒には、書き出し例などのヒントカードを参考にさせる。（タブレットに配信） ○ 強調するためにどのような工夫がされているか表現技法などから考えさせる。 ◎ 詩のイメージ、作者が表現したかった思いや表現の効果について文章に分かりやすくまとめようと工夫することができる。 【思考・判断・表現】
展開	【10編の詩】 ①「虹の足」吉野 弘 ②「春のうた」草野 心平 ③「未確認飛行物体」入沢 康夫 ④「名づけられた葉」新川 和江 ⑤「朝」吉田 可南子 ⑥「貝殻」新見南吉 ⑦「りんご」山村暮鳥 ⑧「土」三好達治 ⑨「月夜の浜辺」中原中也 ⑩「虫」八木重吉		
	5 グループやペアで意見交換する。 【意見交換の視点】 ・相手の紹介文から詩の魅力が伝わってくるか。	17 【グループ】 【ペア】	○ ワークシートに書いた紹介文をロイロノートなどで共有し、共感できたこと、表現技法で気付いたことについて交流させる。 ○ 互いの紹介文を読み、付箋を使ってアドバイスし合うことで、困っていることなどを解決できるようにする。 ○ アドバイスをもとに自分の紹介文を修正する。
終末	6 自分の考えを見直し、自分の紹介文を修正する。	7 【個人】	
	7 本時を振り返り、次時の確認をする。	3 【一斉】	○ 振り返りシートで達成度を確認させながら、次時に向けての意識を高めさせる。